



37:1 ヨシヤの子ゼデキヤは、エホヤキムの子エコヌヤに代わって王となった。バビロンの王ネブカデレザルが彼をユダの国の王にしたのである。

37:2 彼も、その家来たちも、一般の民衆も、預言者エレミヤによって語られた主のことばに聞き従わなかった。

37:3 ゼデキヤ王は、シェレムヤの子エフカルと、マアセヤの子、祭司ゼパニヤを預言者エレミヤのもとに遣わして言った。「どうか、私たちのために、私たちの神、主に、祈ってください。」

37:4 ・・そのとき、エレミヤは民のうちに出入りして、まだ獄屋に入れられていなかった。

37:5 パロの軍勢がエジプトから出て来たので、エルサレムを包囲中のカルデヤ人は、そのうわさを聞いて、エルサレムから退却したときであった。・・

37:6 そのとき、預言者エレミヤに次のような主のことばがあった。

37:7 「イスラエルの神、主は、こう仰せられる。『わたしに尋ねるために、あなたがたをわたしのもとに遣わしたユダの王にこう言え。見よ。あなたがたを助けに出て来たパロの軍勢は、自分たちの国エジプトへ帰り、

37:8 カルデヤ人が引き返して来て、この町を攻め取り、これを火で焼く。』

37:9 主はこう仰せられる。『あなたがたは、カルデヤ人は必ず私たちから去る、と言って、みずから欺くな。彼らは去ることはないからだ。

37:10 たとい、あなたがたが、あなたがたを

攻めるカルデヤの全軍勢を打ち、その中に重傷を負った兵士たちだけが残ったとしても、彼らがそれぞれ、その天幕で立ち上がり、この町を火で焼くようになる。』」

エジプト軍がバビロン軍を退かせたので、人々は安心してしまいました。これでだいじょうぶという安心なことばを聞いたかったのでしょうか。しかし、そもそもエルサレムが包囲されたのは、イスラエルが神に従わなかったからです。

神との関係を忘れて、状況だけで判断する者の危うさがここにはあります。彼らは「カルデヤ人が引き返してくる」というエレミヤのことばに怒るのです。

状況だけを見て安心もできませんし、恐れることもできません。重要なのは神様との関係であり、神様の御心です。そこに目を留めましょう。そこを正していきましょう。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満たしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？

